

第1回今津作業部会(わいわいサミット)議事録

開催日時: 令和8年6月26日 18時～19時30分

開催場所: 今津コミュニティセンター 集会室

グループ	A	B	C	D
参加者数	4名	8名	7名	6名

- 地域福祉計画および地域福祉活動計画の策定:
事務局より、中津市における「わいわいサミット」の開催目的として、地域福祉計画と地域福祉活動計画の2つの計画策定が説明された。
- 地域福祉計画は行政による施策目標を定めた法的な計画であり、地域福祉活動計画は住民やボランティア、社会福祉協議会などが主体となり、市内15の地区ごとに具体的な目標や行動を決定する実践的な計画であると説明。これらは、高齢化や希薄化した地域関係により孤立する住民の問題に対処し、誰もが安心して暮らせる地域社会を構築するために今年度10月頃までの完了を目指して話し合いが持たれる。
- グループワークの趣旨説明と自己紹介:
事務局より、作業部会の進め方として、参加者が居住地域の自慢や個人的な体験を共有する形式が提案され、正解や間違いのない自由な意見交換が推奨された。参加者はテーブルごとに自己紹介を行い、居住地域の魅力や自身の活動について発表することとなった。
- 参加者から、自己紹介とともに自身が携わっている地域活動の詳細が共有された。
- グループワーク①
ファシリテーターの説明の後、参加者が住んでいる地域で「いいな」と思うものや場所について、「花」をモチーフにしたカードに書き出す作業を促しました。参加者は個々人で2分間思考を巡らせ、各自の思いや誇りに思う点を書き出しました。
- 参加者は個々人で書き出したカードをグループ内で共有し、模造紙に貼り付ける作業を行いました。この過程で、他者の意見を聞きながら新たな気づきを得たり、自身のカードを追加したりして、グループ全体で地域の魅力を可視化しました
- 他グループとの共有:
事務局の促しにより、各参加者は他グループが提示した意見を閲覧し、自身の考えに追加や修正を加える時間が設けられた。他の地区で行われている特色ある活動などが共有され、地域資源についての新たな気づきが促された。
- 地域行事、サロン活動、地域の環境などが出されました。

- グループワーク②:
住みたい地域をイメージする作業が行われ、参加者は必要な施設やサービスについて意見を出し合った。生活の利便性を高めるスーパーや病院、交通手段の確保、移動販売の実施そして地域住民が集まり語り合える場の重要性が議論された。
- 参加者は、近隣に住む住民の構成について、高齢者、子育て世代、共働き世帯、外国人住民といった多様な属性を挙げた。
- 参加者から交通の便が良く病院やスーパーが近くにある場所への居住を希望する意見が共有された。さらに、世代間交流が可能な場所の整備、コミュニティバスの本数や運行場所の改善、高齢者が集まれる場所や地域の見守り機能に対する要望が挙げられた。
- 参加者から現在の地域における良い点として、ゴミが落ちておらず清潔であること、最近引っ越してきた人に対しても地域住民が優しいこと、上の地区の女性が親切であること、そして地域活動に協力的である点が挙げられた。
- 参加者からより暮らしやすい地域にするために、相談ができる場所の拡充、高齢者向けの移動販売の導入、子供たちの居場所や遊び場の確保、そして誰でもいつでも参加や相談ができる環境の整備が必要であるという意見が出された。
- 参加者から徒歩圏内で買い物ができる利便性や、大人、子供、若者、高齢者がバランスよく共存する地域を望む声が上がった。また、かつてのように商店街が賑わいを取り戻してほしいという要望も共有された。
- 参加者から暮らしやすい地域の特徴として、自身の意見を素直に言える優しい地域性や、誰でも受け入れられる場所の存在、そして美味しい食べ物があることの重要性が指摘された。
- 事務局は、今回の作業の終了を宣言し、今後は掲示された「こんな地域にしたい」という目標を実現するために、具体的に必要な取り組みや行動について議論していく方針を示した。